

学校新聞

平成27年度  
「薫風」第1号  
4月20日(月)

# 薫風

～緑新たに風も薫れり～



発行元 東京都立大崎高等学校全日課程 〒142 - 0042 品川区豊町2-1-7

今後も大崎高校は変化・成長し続けます。

校長 白井 克昌

この4月に赴任してまいりました校長の白井克昌です。簡単な自己紹介ですが、これまで教育行政で10年間、都の教育施策に関わり都立高校改革を推進してきました。昨年度までは、東京都教育庁指導部において、体育健康教育担当課長として、子供の体力向上施策の推進や部活動の振興と競技力向上、オリンピック・パラリンピック教育の推進等に努めてまいりました。

大崎高校は、この3年間で、大変大きく変化・成長してきました。特に、防災教育に取り組むことで、地域との絆が生まれ、学校に対する評価が一段と高まりました。そうしたことが生徒にもよい影響が出て来て、教育活動全体に良い影響を及ぼし、学校全体の活性化につながっていると伺っています。防災教育は、都立高校でNo.1かと思います。

私は、東日本大震災が発生した直後の5月、岩手県大槌町教育委員会に3週間派遣されました。被災地に到着した時の悲惨な状況はいまでも脳裏に焼き付いています。そういったことから防災教育の取組の重要性を実感していますので、力を入れていきたいと考えています。

今後とも、平成23年度に100周年を迎えた大崎高校の歴史と良き伝統を受け継ぎながら、新たな前進に向けて着実に歩んでまいります。本校がこれまで取り組んできた生活指導、学習指導、進路指導、部活動、学校行事等をさらに深化させ、地域住民、都民から期待される学校づくりを目指してまいります。

具体的には、「時を守り、場を清め、礼を正し、公共を意識する。」のローガンを継続させ、遅刻防止、茶髪の改善、清掃・美化の徹底、挨拶の励行など、生活指導の充実に向け全校あげて取り組み社会性を育ててまいります。

また、基礎学力を重視した学力の向上、補習・講習や、大学進学に向けた特進講座の実施、奉仕体験活動を通じた道徳心や道徳的実践力の育成、部活動等の文化・スポーツ活動の活性化、オーストラリアでの語学研修、長い距離を歩く強歩遠足などの学校行事の充実に取り組んでまいります。

そのため、全教職員が一丸となり、きめ細やかな指導を心がけ、生徒一人一人が社会的自立に向けて成長できるよう、卒業まで心を込めて育ててまいります。生徒には、かけがえのない高校生活を本校で学ぶことにより、豊かな感性と知性を磨き、社会貢献を担えるたくましい人間に成長してほしいと願っております。

2015年4月、大崎高校での高校生活の始まりです。1年生の皆さんは、期待した日々を送ることができていますか。なぜか寒い日が続いていますが、1年生も2年生も夜更かしをして、始まったばかりの授業で寝ていませんか。ここで一気に春休みの生活の乱れを直しましょう。1日の生活のリズムを整えて学習・学校活動に取り組んでいきましょう。

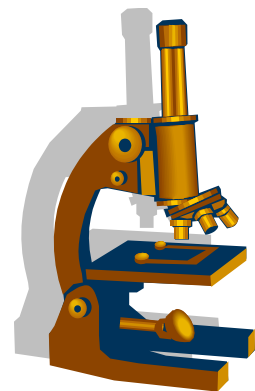
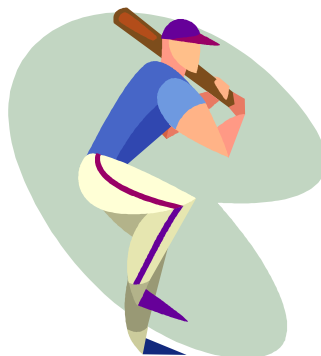
まずは、1日のスケジュールを新しく立てましょう。平日のスケジュール、休日のスケジュールは分けて立てます。高校生は忙しい！勉強だけじゃない。部活動、校内活動・行事への参加など、4月はいろんなことが盛りだくさんです。その流れに飲み込まれないように、スケジュールをしっかり立て毎日を過ごしましょう。勉強が遅れないために自宅学習は最低3時間は入れること。3時間は長い？？？と感じたら、30分×今日の授業の科目の復習+明日の英語の予習とか。やり方はいろいろあるけれど、とりあえずゴールデンウィークまでに学習をする習慣をつけましょう。職員室前の廊下には先生に教えてもらうための机も設置されています。その場所を利用して、先生と一緒にその日の復習を学校で済ませる手もあります。

次に部活動、サークル活動へ積極的に参加する。週に活動する回数はまちまちですが、部活動・サークル活動で同じ趣味を持つ仲間を作ることも大切です。同じ目標を共に持つ仲間とはきっと強い信頼関係を築くことができるでしょう。顧問の先生との深いつながりから得るものも大きいはず。

そして、ボランティア活動へも参加しよう。自分の知らない世界との遭遇です。年齢の違う世代の人たちとの交流から今までの自分とは違ったものの見方・考え方が生まれることでしょう。

高校時代は、自分からいろいろな事に積極的にチャレンジする時期です。その体験が将来の可能性を広げ、進路実現に生かされます。

高校最後の年を迎えた3年生へ。実は残りわずか10か月、春休みに立てた進路実現のための計画は思い通りに実行できましたか。さまざまな事に挑戦してきた3年生こそ次の進路ステージに自信を持って臨んでください。大崎生みんな、それぞれの期待を胸に1年間がんばって行きましょう。



## 『3000時間・100点満点・ポジティブに攻めの学習をする』

教務部 菅野

### 今回のテーマ

- 1、自主的な学習の重要性を認識する。→ 自宅学習の習慣をつくる。
- 2、得意な科目をつくる。→ 毎日必ず復習して100点満点をとる。

4月になりました。新学期です。新たな学校、新たなクラスで、新たな出会いと新たな決意。気分一新、今日から勉強に励みましょう。初心貫徹です。

高校とは自分で学習をするところです。自分で日夜学習を続けながら、「自分は将来何がしたいのか」「自分の好きなことは何なのか」「自分の研究したい学問はなんだろう」など自分の進路を見つけ、その目標に向かって日々努力をしていく。それが高校生です。

さて、まずは受験についてふれます。予備校の人から、受験するためには学校の勉強以外に、3年間で3000時間の勉強時間が必要不可欠だと聞いたことがあります。英語の単語を4000覚えたり、入試の漢字を2000覚えたり、受験ではさまざまな基本的に必要な知識が有り、それらを暗記・理解するためには3000時間は必要だということでした。具体的には1年生は毎日2時間、2年生は毎日3時間、3年生は毎日4時間自宅学習する必要があります。計算すると、 $2 \times 365 = 730$ 、 $3 \times 365 = 1095$ 、 $4 \times 365 = 1460$ 、合計3285となります。3年間で3000時間になるように、計画をたてて学習していくように。

次に自宅学習についてふれます。自宅学習はなかなか習慣とするのが難しく、かなり苦勞します。なんども挑戦してくじけた人も多くいると思われます。

そのため具体的な提案を一つしたいと思います。それは「得意科目をひとつだけでいいからつくろう」ということ。自分の好きな科目、得意な科目、伸ばしたい科目、興味がある科目、将来につながる科目、なんでもいいから、何かひとつ。

その科目を毎日必ず自宅で復習してください。そして一学期の中間考査で100点を狙ってください。みんなは最後に100点をとったのはいつでしたか。100点満点はなかなかとれないもの。100点をとれば、きつとなにか今までとは違った風景が見えてくると思います。それは自信かもしれないし、新たなやる気かもしれません。人生が変わることだってあります。「そんなの、無理、無理」「100点なんてとれるわけない」そういったネガティブな考えは捨てること。まず、チャレンジ。何事もやってみなければわかりません。100点をとってください。

4月です。新学期です。今年こそ頑張ってみましょう。「あきらめない」「くじけない」「自分から変わろうと努力する」「強い自分になる」学習に対して、ポジティブに攻めの姿勢でのぞむ。そんな大崎高校生になってほしいと希望します。

1年生、2年生、3年生、頑張ってください。

「朝の読書活動」を10分間（8：25～8：35）で実施します！

副校長 小林

今年度から朝の読書活動を8：25～8：35の10分間の時間を確保して、開始します。生徒の皆さん！朝のたったの10分間の読書の継続で、知らないうちに、すごい力が付くことを保証しますので、この1年間、しっかりと取り組んでみてください。

言葉の獲得のためには、読書が一番の方法です。

読書は、人間が人間足らしめる上で、最も基礎的・基本的な部分となります。読書をしていない人間がいくら勉強をしたとしても、土台がないところに家は立たない。わたしたちは言葉を通して生きています。

読書は、すべての学習の基本です。

読書によって、すべての教科の学力向上につながります。

数学にしろ、科学にしろ、教科書に書いてある語彙が理解できなければ、その問題を解くこともできない。

自身の学力向上のため、進路実現を可能にするためとの思いで、朝の読書活動に取り組んでください。

一冊の本は、偉大な教師とめぐり合ったのと同じです。

読書は「人間だけができる特権」であり、いかなる動物も読書はできない。

自分の人生は1回きりだが、読書によって、何百、何千のほかの人生に触れることができるし、過去の歴史の賢者とも語らうことができる。ソクラテスやユゴーとも語り合うことができます。

読書には、人生の花があり、川があり、道があり、旅があります。楽しみがあり、怒りがあり、大いなる感情の海があり、知性の船があり、夢があり、ドラマがあり、世界があるのです。

そして、大事なことは、どんな「喜び」でも、それなりの練習や努力が必要です。読書もそれなりの努力、挑戦があって初めて「喜び」がわかってくるのです。

いったん、その喜びを知った人は強い。「本が友だち」になった人は強い。

読書は「習慣づける」ことが大切です。読書が習慣になった人は、電車の中でも、寝る前でも、トイレの中でも読むものです。

読書をしている人とそうでない人の差は、1年で、想像以上に開くものです。

良い本との出会いは知識を深め、感性を高め、視野を広げ、そして世界を広げることにつながります。

自分自身の夢を見つけ実現するために、朝の読書活動に取り組んでいきましょう。

